

環境学習みえ

2020年1月／三重県環境学習情報センター（四日市市桜町3684-11）年4回発行

表紙の人／前列左：山本 勝治さん（語り部） 右：齊藤 正英さん（解説員） 後列：四日市公害と環境未来館 職員のみなさん 2020 No.79



未来へつなぐために

（四日市公害と環境未来館 開館5周年）



1月 14日 (火)	
教員	内容
1	朝礼会 3班の係決め
2	道徳 全員で動物の
3	国語 大塚いばとカン
4	算数 小数の計算
5	社会 日本の工業
6	習字 毛筆(平仮)

先生以外は
さわらない

未来へつなぐために ～四日市公害と環境未来館 開館5周年～



四日市公害と環境未来館は四日市公害の歴史と教訓を次世代に伝えるとともに、環境改善の取り組みや産業の発展と環境保全を両立したまちづくり、さらには、その経験から得た知識や環境技術を広く国内外に情報発信することを目的に平成27年3月21日、開館しました。今回は、この3月で5周年を迎える四日市公害と環境未来館について、館長の生川さんにお話を伺いました。

多様な来館者

四日市公害と環境未来館には年間を通してたくさんの方が訪れていきます。そのなかでも社会見学などで訪れる小中学校の数は多く、平成30年度には150もの学校が来館しました。四日市内内では全校が来館して小学5年生および中学3年生が公害・環境学習を行っています。学校などの団体が見学する場合は、職員が案内と解説を行います。最近では県内だけでなく愛知や滋賀といった県外からも学びに訪れる学校が増えているようです。

四日市公害と環境未来館の常設展示は、2階のフロア全体にあります。高度経済成長期に発展した四日市市の産業のようすから公害の発生、環境改善までの歴史を学ぶことができます。さらにこの常設展示では、当時を語る数多くの証言を聞くことができます。ただ見る展示だけでなく、公害を体験したさまざまな立場の方たちによる証言から「四日市公害」を多角的な視点で学ぶことができるのが特徴です。

また小・中学校のほかに、大学のゼミや自治体、自治会のほか、企業の社員研修や海外からの視察・研修も数多く受け入れています。公害を乗り越えた経験と、培った環境技術を学ぶために、

海外からも多くの人が訪れているのです。

生川館長
「こうした多様な来館者に対し、四日市公害の歴史と教訓を伝え、ともに未来に豊かな環境を引き継いでいくことが当館の使命です。」

また、次の世代につなげていくために、四日市公害と環境未来館には職員のほかにも、公害の記憶を語り継ぐ「語り部」、市民ボランティアである「解説員」、環境活動の実践者である「四日市市エコパートナー」がともに活動しています。四日市公害と環境未来館を拠点に「未来へ、より良い環境を引き継ぐために」協働する三者の取り組みについてもご紹介いたします。



▲海外からの視察・研修

【お話を伺った人】

四日市公害と環境未来館 館長

なるかわ たかし
生川 貴司さん

～開館5周年を迎えて～

現在まで国内外26万人を超える方々にご来館いただきました。これもひとえに館設立にあたり、貴重な資料の提供等多大なご尽力をいただいた市民、企業の皆様、また館の運営にお力添えをいただいている多くの関係者の皆様のおかげと深く感謝しています。

02 公害の発生



戦後、全国で大気汚染公害が問題に…。工業都市四日市市でも、くさい魚が獲れたり、悪臭、ばいじん、騒音などの苦情が市に寄せられました。また亜硫酸ガスを主な原因とするぜん息が深刻な問題になりました。当時の写真や肉声などから公害の実態を感じることができます。

ぜん息で入院している患者さんの声を記録した音声があります。ぜん息がいかにかしくてつらい病気であるかわかります。



亜硫酸ガス(硫黄酸化物)とは

石油などを燃やしたときに発生するもので、水に溶けやすく、鼻や喉、気管支を刺激し、ぜん息などの呼吸器系疾患の原因になると考えられています。

03 まちづくりの変遷



1889年に誕生した四日市町が現在の姿になるまでを、四日市市の模型に映像を投影し解説しています。

04 環境改善の取り組み



市民・企業・行政が一体となって取り組んだ環境改善によって、昭和51年度に二酸化硫黄濃度が、国の環境基準を市内全域でクリアしました。その歩みをそれぞれの側面から展示しています。

行政は硫黄酸化物の総量規制を設けるなどの条例をつくらせたり、企業は抜本的な公害対策に努めたりしました。



四日市市の大気汚染物質観測データをリアルタイムで見ることができます。

市内の二酸化硫黄濃度は環境基準を達成し、現在も良好な状態で推移しています。



常設展示

四日市公害と環境未来館

〈解説員〉

さいとう まさひで
齊藤 正英さん

平成23年「解説員養成講座」を修了。現在、解説員として活躍しています。

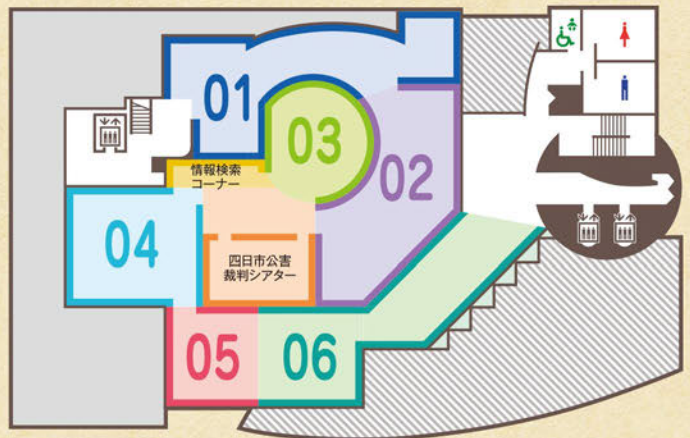


案内します!

01 産業の発展とくらしの変化



明治以降の四日市港の発展とともに、戦争を経てコンビナートができるまでの様子を、当時の写真や映像、人々のくらしの再現によって知ることができます。



四日市公害裁判シアター

1967年、磯津の公害認定患者9人がコンビナート企業を相手に裁判を起こします。当時の資料や証言を交えた映像から、四日市公害裁判とその影響を解説しています。



1972年 四日市公害裁判で原告側が全面勝訴

裁判によって工場からの排煙とぜん息の因果関係が明らかになり、これを機に全国で公害防止対策が進みました。

患者、市民、医療、司法、企業、行政などのさまざまな分野の関係者、約60名の方々の証言映像を聞くことができます。



06 環境先進都市四日市



地球規模で拡大する環境問題を伝えるとともに、四日市市の取り組みを紹介しています。未来に向けて私たちができることを考えてみましょう。

未来に向けてメッセージ▶



展示に関する疑問は解説員へ!

解説員は、「解説員養成講座」を修了した方で、来館者への常設展示室の案内をしています。土日祝日を中心に、約30名の解説員が活躍しています。ブルーの解説員ベストが目印です。展示室で会えたらぜひ話しかけてみてください。



四日市公害と環境未来館では毎年「解説員養成講座」を開催しています。18歳以上の方ならどなたでも受講できます。詳しくは四日市公害と環境未来館までお問合せください。

05 現在の四日市



現在もお豊かな自然が残る姿と、環境に配慮しながらイノベーションを行う四日市の産業の姿を示しています。

環境学習の
実践者!

四日市市エコパートナー (以下、エコパートナー)

四日市市は、環境について、ともに学び、考え、行動する社会を目指す取り組みを行っています。四日市市環境計画に基づき、市と協働で、環境学習、環境活動を行う個人、団体、事業者のみなさんがエコパートナーとして活躍しています。現在約50団体が登録しており、各自の得意分野を生かした様々な公害・環境に関する講座などが実施されています。

講座の内容は座学だけでなく、野外のフィールドでの自然体験など多岐にわたり、この5年間で約2,000人の市民が参加しました。こうした多彩な環境学習講座を行えるのも、日ごろ地域で地道に活動しているエコパートナーならではの強みです。



▲四日市市エコパートナー事業
「四日市にアカウミガメがくるよ!」

この日、公害環境学習に訪れた小学5年生を対象にお話しされたのは、山本勝治さんです。山本さんは四日市公害が発生した当時、第二コンビナートの企業に勤めていました。工場周辺の環境の変化を目の当たりにし、「公害をなくすために、自分が働く工場を改善していかなければいけない」と考えていたそうです。当時の環境はどのようなものだったのか、公害被害のようすや、それを改善しようとする企業の公害対策についても説明してくれました。企業は空気をきれいにするために、ぜん息などの原因となる亜硫酸ガス



〈語り部〉
山本勝治さん
四日市再生
「公害市民塾」代表

公害の記憶を語り継ぐ 「語り部」

四日市公害と環境未来館には、四日市公害を経験したご自身の体験談をお話しする語り部がいます。現在6名の語り部がそれぞれの思いを来館者に伝えており、公害の記憶の継承という点でなくてはならない存在です。

このように当時を知る語り部の生の声を持つ力は大きく、聴講した人からは、「資料で調べるより現実味が沸いた」「立場によって色々な見方があることが新鮮だった」などの声が届いています。

(硫黄酸化物)の発生が少ない燃料に転換しました。そして排煙から硫酸酸化物を除去する排煙脱硫装置を設置するなどの公害防止のための整備を進めました。豊かな環境を取り戻すために、長い時間と色々な人たちの努力があったのです。

また、お話を聞いた小学生からの質問に対して、山本さんは「会社を辞めさせられるのではないかと不安もあった」と答える場面がありました。そのような状況のなかでも四日市公害の実態を伝え、多くの人にこの問題を理解し、環境改善に向けて進んでほしいという思いで活動を続けてきたそうです。



「より良い環境」をめぐる協働で

公害の歴史の生き証人である語り部の存在は唯一無二のもですが、同時に高齢化という問題も抱えています。昨年1月には、四日市公害裁判の原告であり語り部でもあった野田一さん^{（ゆのだ ひとし）}が亡くなりました。四日市公害の発生からすでに半世紀以上が経過し、当時の様子を知る人が少なくなる中で、記憶の継承が課題となっています。

こうした事態に対応するためには、語り部講話の映像資料の整備だけでなく、やはり人による継承が大切になつていきます。公害を実際に経験していない人が伝えていくことの難しさを感じながらも、市民ボランティアである解説員や職員のみなさんの存在が今後、ますます大きくなっていくとでしよう。

また、これからの環境問題を考えていくうえで、私たちが環境に対する意識を持ち、行動していくことが欠かせません。市と協働で環境活動を実践しているエコパートナーは、その中心的な存在です。今後も、四日市公害と環境未来館が市域における環境活動の拠点となり、エコパートナーのみなさんの活動の輪が広がっていくことが期待されています。

学び、情報発信の場として

四日市公害と環境未来館では毎年、公害環境問題に関連した企画展を開催しています。

令和元年の夏に開催された、開館5周年記念企画展「地球の彩りを宇宙から」では、宇宙から眺める地球の姿が写真と映像で紹介されました。地球観測衛星が観測した世界中の自然環境のデータから、最新の地球環境の変化をみることで、今、地球で起こっている環境問題に目を向け、かけがえのない地球の大切さを考える機会になりました。

そのほかにも四日市公害と環境未来館では子どもから大人まで、さまざまな環境問題への理解を深める環境学習を年間約190講座実施しています。なかでも子どもを対象とした環境学習講座には、貝がら、ドングリなどの自然のものやリサイクル材料を使った工作、科学実験、野外での自然体験など、多様な分野を切り口にして、楽しく環境について学ぶことができる講座が企画されています。



▲企画展「地球の彩りを宇宙から」



▲カニカイパラダイス

四日市公害の経験をどう活かすか

ひとたび環境が破壊されると人命に関わる甚大な被害がもたらされること、その回復には多大な労力が必要なこと、失われた命は決してもどらないこと。四日市公害の歴史は、人間にとっての普遍的な教訓を提示しています。

生川館長「四日市の経験を積極的に情報発信することが、全世界共通の課題でもある公害・環境問題に対し、いかに対処すべきかのひとつの大切なことになると思います。そして、そのことが、四日市公害で犠牲になられた方々に対する我々の責務だと考えています。」

また四日市公害の経験には、大気汚染や健康被害などの公害・環境問題だけでなく、経済発展とのかかわりなどさまざまな要素が含まれており、そこには持続可能な社会を実現するため、SDGs（持続可能な開発目標）達成に向けての手がかりを得ることができます。

その経験を過去のことだと終わらせず、私たち一人ひとりが未来へ引き継いでいくためにこれからの時代、身近な自然や社会の課題にも目を向け、自分のできることを考え行動していくことが求められています。

そして5周年を迎える四日市公害と環境未来館は、こうしたことを次世代へつないでいく拠点として、今後も展開していきます。みなさんもぜひ訪れてみてください。

写真提供 四日市公害と環境未来館



四日市公害と環境未来館


四日市市安島一丁目3番16号 四日市市立博物館2階
<https://www.city.yokkaichi.mie.jp/yokkaichikougai-kankyomiraikan/>

開館時間 ▶ 9:30~17:00(展覧会への入場は16:30まで)
 休館日 ▶ 月曜日(祝日の場合は翌平日)・年末年始・臨時休館日
 入場料 ▶ 無料 ※特別展・企画展は展覧会ごとに定めます。

ちびっこ環境劇

日時 2020年3月29日(日) 13:30~14:30

場所 そらんぼ四日市 (四日市市立博物館) 1階 講座室



子どもたちがオリジナルの環境のお芝居に挑戦します。どなたでも鑑賞することができます。ぜひご覧ください

四日市公害と環境未来館 開館5周年記念講演会


定員80名 申し込み不要

日時 2020年3月21日(土) 13:30~15:00

場所 そらんぼ四日市(四日市市立博物館)1階 講座室

演題 「環境」をめぐる環境の変化に対応する
 ー四日市公害と環境未来館開館5周年に寄せてー

講師：元環境事務次官
 一般財団法人
 日本環境衛生センター
 理事長 南川 秀樹さん



主催 四日市市

トピックス みえ

令和元年度「三重県地球温暖化防止啓発ポスターコンクール」入賞者一覧

(各賞 順不同・敬称略)

小学生の部

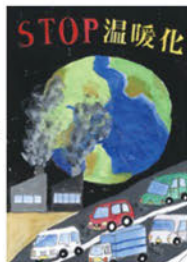
最優秀賞



伊賀市立
府中小学校2年生
にしおか ゆうけん
西岡 佑兼

優秀賞

2点



津市立
一志東小学校6年生
よしだ こはる
吉田 心遙



松阪市立朝見小学校4年生
おかだ しん
岡田 仁

佳作

5点



松阪市立第五小学校2年生
ささき けいたつ
佐々木 啓達



津市立立成小学校3年生
くどう かんたろう
工藤 勘太郎



津市立
黒田小学校6年生
ねりき しょう
練木 盛



四日市市立桜台小学校4年生
あさひ しおん
朝日 風音



玉城町立
田丸小学校5年生
くつかけ はると
沓掛 暖叶

中学生の部

最優秀賞



伊勢市立港中学校3年生
おの そうや
小野 颯也

優秀賞

2点



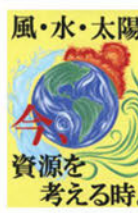
津市立
南が丘中学校1年生
もりお だいし
森尾 太俊



鈴鹿市立千代崎中学校3年生
たなか かいと
田中 海斗

佳作

5点



志摩市立
大王中学校3年生
はまぐち こはく
濱口 虎白



津市立
南が丘中学校2年生
かどまえ ことみ
門前 琴海



松阪市立
鎌田中学校3年生
かきうち りく
垣内 亮玖



松阪市立
久保中学校2年生
ゴンザレス
アントン



四日市市立
西朝明中学校1年生
ふくやま 福山 ゆき

令和元年度「三重県地球温暖化防止啓発ポスターコンクール」審査講評

自分たちが考え、行動し、地球を守っていかねばという想いのこもった多くの作品から、とくに、「メッセージが伝わりやすいポスター」、「ことばや絵に工夫があるポスター」、「見た人の印象にのこりやすいポスター」を中心に選びました。みなさんがポスターを描く中で考えたことや、他の人の作品をみて感じたなにかが、地球を守る第一歩につながると信じています。

【小学生の部】最優秀作品の「海の魚もあついよ!」は、みる人をひきつけるあざやかな色の組み合わせが印象的な作品です。ふだんの生活の中ではみることのない海の中の世界を楽しく描き出しながらも、すでに危険が迫っている様子をうまくあらわしています。優秀作品「地球が砂ぼくになりそうです」、「STOP 温暖化」も、地球温暖化に無関心な恐ろしい世界を表現し、みる人に力強くうたえかけるポスターに仕上がっています。

【中学生の部】最優秀作品「一緒に冷やして」と優秀作品「これから すーっとそとで野球がしたい」は、いずれも直接的なことばや絵は用いずに、地球温暖化防止を願う作品です。心の中のようなかざらないメッセージと丁寧に描かれた絵は、みる人の共感を呼びます。一方、優秀作品の「MISSION 地球温暖化を止める!!」は、緊張感に満ちたメッセージと絵で、瞬時にみる人の心をつかみます。いずれも強く印象にのこる、完成度の高いポスターです。

講評：令和元年10月22日 三重県立美術館 学芸普及課 学芸員 道田 美貴 氏

入賞作品は、三重県総合博物館ほかで展示予定です。くわしくは三重県環境学習情報センターのホームページをご覧ください。



はみだしNEWS:メルマガ登録者をE-mailで募集中。氏名(ふりがな)、mailアドレスを明記し、info@eco-mie.comまで送信してください。

あなたと一緒に「本気のSDGs」

2015年9月に採択され、2016年1月の発効から5年。2030年の目標達成年まであと10年。この間、お笑い芸人がPRしたり、新聞の特集記事になったり、電車のつり革や座席がSDGsマークで飾られたり…。先日も車で高速を走っていたら、SDGsアイコンを付けたトラックを見かけました。しかし、どれだけの人知っているかという、きつとまだまだ…。SDGsの基本理念「だれ一人 ひとりのこさない」。人類の生存をかけた、壮大かつ重要な「私」の目標です。

三重県環境学習情報センターでは、「SDGsを知る、理解する、行動する」講座を開催します。ぜひ、ご参加ください。

2019年度 冬 SDGsにつながる講座 ※詳細は講座NEWSに

- ESD実践講座「わたし、地域、世界をつなぐ学びかた」
- 水×SDGs「時を経て 地球をめぐる」
- 企業から学ぶ講座「サステナブルな未来へ」
- 気候危機×SDGs「異常気象時代に生きる!!」

SDGsとは
「持続可能な開発目標」。2015年に国連総会にて世界193か国の首脳の合意により採択。2030年度を目標達成年度とし、17目標169ターゲットで構成されている。



▲コープみえ環境活動団体交流会 SDGsワークショップにて



施設見学・環境講座・出前講座のご案内

三重県環境学習情報センターでは、地球温暖化防止、自然環境、エネルギー、ごみ・リサイクルなどをテーマに広く環境学習講座を行っています。学校の授業や市民団体の学習会、公民館の講座、企業の学習会にお役立てください。各講座は、センターまたは県内各地での開催が可能です。



買い物ゲーム

紙すき体験

水質チェック

エコソング

詳しくはお問い合わせください。

<http://www.eco-mie.com/kouza/2019/demae.html>

「秋のキッズエコフェア」開催しました!

9月28日(土)、29日(日)の二日間「秋のキッズエコフェア」と、センター近隣の四日市スポーツランド、四日市市ふれあい牧場、四日市市少年自然の家との合同で「秋のワクワクふれあいまつり」を開催しました。天候にも恵まれ、29日は14団体に出展していただき、両日合わせて2,853人の方々の来場がありました。



「フードドライブ」

ご協力ありがとうございました!

三重県環境学習情報センター 講座NEWS

詳細・申込方法については、ホームページ・チラシをご覧ください

PICK UP 環境講座はお近くでも開催できます

学校の先生の場合 地域活動団体の場合 自治体の場合

スキルアップなどに
利用ください。

メンバーの環境教育
やスキルアップなどに
ご利用ください。

市町での環境活動を
増やすキッカケ作り
にご利用ください。

環境講座は出前講座としても実施できます。詳しくはお電話ください。

講座予定

環境学習指導者養成 スキルアップ講座 サステナブルな未来へ～企業と生活者による対話～ 全3回 ②3月7日(土) ③3月20日(金) ※①は終了しました。

会場	三重県総合文化センター(津市)	締切	先着順 ※定員に達し次第 締め切ります。
内容	企業のESG/SDGsの取組、最新技術を取り入れた開発を学び、生活者の疑問・質問による意見交換など企業と生活者が近くなる対話の場を設け、学びを深めます。②九鬼産業 ③花王		

環境学習指導者養成講座 みえ星空環境案内人養成講座 ※全3回 ①2月22日(土) ②2月29日(土) ③3月7日(土)

会場	①四日市市勤労者・市民交流センター(四日市市) ②三重県環境学習情報センター(四日市市) ③鈴鹿馬子倶楽部、鈴鹿峠自然の家天文台「童夢」(亀山市)	締切	先着順 2月10日(月)
内容	星と人との環境の懸け橋になる指導者「みえ星空環境案内人」を養成します。また、この講座を通して、全国共通資格「星空案内人(星のソムリエ®)」の取得も目指すことができます。		

環境学習指導者養成 スキルアップ講座 気候危機×SDGs ～異常気象時代に生きる!!～ 1月19日(日)

会場	みえ市民活動 ボランティアセンター(津市)	締切	先着順 ※定員に達し次第 締め切ります。
内容	異常気象や気候変動が深刻な問題となっている今、私たちの暮らしや社会の変容と適応について、専門家と交えて、みなさんと語り合います。		

環境学習指導者養成講座 野鳥案内人講座(基礎・冬) 2月23日(日)

会場	松阪農業公園ペルファーム(松阪市)	締切	1月28日(火)
内容	野鳥観察会を催すための、身近な野鳥の知識と双眼鏡や望遠鏡の使い方、安全に行うための注意点などを、野外活動やグループ活動等を通して学び合います。		

環境学習指導者養成 スキルアップ講座 水×SDGs ～時を経て 地球をめぐる～ 3月21日(土)

会場	みえ市民活動 ボランティアセンター(津市)	締切	先着順 ※定員に達し次第 締め切ります。
内容	水問題—と聞いて、どういったことを思い浮かべるでしょうか。「誰ひとり置き去りにしない」社会をつくるために、「水」をテーマに学びあう時間を持ちます。		

環境学習指導者養成講座 野鳥案内人講座(春) 4月5日(日)

会場	三重県民の森(三重郡菟野町)	締切	先着順 3月24日(火)
内容	野鳥を通して自然界のつながりや生物多様性の大切さを伝え、節度ある観察会を実施できる人を養成する講座です。◇この時期の野鳥の知識 ◇野鳥観察会のマナー ◇野鳥観察会の方法を考える		

環境学習指導者養成 スキルアップ講座 尾鷲ひのきの森見学会～FSC認証の森づくり～ 2月1日(土)

会場	三重県立熊野古道センター(尾鷲市)	締切	先着順 ※定員に達し次第 締め切ります。
内容	尾鷲市のFSC認証の森づくりについて解説します。また、三重県立熊野古道センターの学芸員による展示の解説で尾鷲の歴史や文化を学んだあと、尾鷲ひのきの森を見学します		

環境学習指導者養成講座 プロジェクト・ワイルド エドゥケーター養成講習会 3月1日(日)

会場	三重県環境学習情報センター(四日市市)	締切	2月4日(火)
内容	野生動物を中心とした参加体験型の環境教育プログラムを実施する指導者の養成講座です。テキストにあるプログラムを体験した後、テキストを見ながらグループでプログラムを考えて、他の参加者に実施して練習します。テキスト代6,500円必要。※8人未満中止。		

環境講座 身近な冬鳥を観察しよう 3月8日(日)

会場	三重県総合博物館MieMu、 及び、安濃川河口(津市) (集合:三重県総合博物館、解散:安濃川河口)	締切	2月16日(日) 申込先 三重県総合博物館
内容	三重県総合博物館で野鳥の剥製を見ながら解説を聞いた後、安濃川河口に移動してカモ類、カモメ類、サギ類などの水鳥を中心に観察します。双眼鏡の貸出もあります。		

環境講座 春のバードウォッチング 4月12日(日)

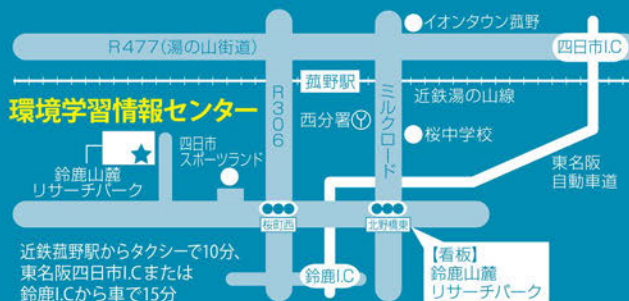
会場	三重県上野森林公園 (伊賀市)	申込期間	3月1日(日)～4月1日(水) 先着順 申込先 三重県上野森林公園
内容	三重県上野森林公園を散策しながら、春の野鳥のさえずりを楽しみます。まだ残っている冬鳥と、早くやって来た夏鳥を観察できるかもしれません。初心者、家族連れ歓迎します。双眼鏡の貸出もあります。		

※「先着順」以外はすべて抽選となります。各講座の詳細につきましては、お問い合わせください。

三重県環境学習情報センター

〒512-1211 三重県四日市市桜町3684-11

Tel	(059) 329-2000
Fax	(059) 329-2909
Mail	info@eco-mie.com
HP	http://www.eco-mie.com/
休館日	年末年始(12月29日～1月3日)
開館時間	午前9時～午後5時30分
入館料	無料



Facebook @eco_zou